

学科名	生物環境化学科							
科目名	アドヴァンス英語 II							
科目区分	リテラシー科目	単位数	1	開講時期	3年後期			
必修・選択の別	選択必修科目							
担当者	森田資隆							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオサイエンス分野の専門用語を英語で正しく発音し、記述することができる。 ・研究室内で使用する会話やレポート作成などを英語で行うことができる。 ・英語圏の研究者に手紙を書いたり、英語で研究発表することができる。 ・自己表現やコミュニケーションの道具として、英語を使用することができる。 							
日程と内容	9月18日:導入講義 9月25日:サイエンス英語の発音 10月 2日:サイエンス英語の英単語 10月 9日:研究室での英会話(1) 10月16日:研究室での英会話(2) 10月23日:研究室での英会話(3) 10月30日:研究発表会での発表テクニック 11月 6日:中間試験 11月13日:研究発表会での発表の仕方(1) 11月20日:研究発表会での発表の仕方(2) 11月27日:研究発表会での発表の仕方(3) 12月 4日:サイエンス英会話(1) 12月11日:サイエンス英会話(2) 12月18日:総括 1月15日:期末試験 1月22日:サイエンス英会話(3)							
成績評価基準	定期試験	50%	実技	0%	臨時試験	20%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	講義中では、サイエンス英語の発音、サイエンス英語の英単語、研究室での英会話、研究発表会での発表テクニック、サイエンス英会話などについて講義を行った。そして、授業評価アンケートでの理解度でも、平均値が4.0であることから、ある程度は十分に理解されていると考えられる。したがって、評価成績に準じたレベルに到達できたと判断した。							
反省点	授業評価アンケートでは、『授業内容の理解度』で平均して4.0点/5点満点であったが、高い評価の中にもやや低い評価も一部見受けられた。これは、本講義がリテラシー科目であるが、ある程度の基礎科目の履修を踏まえて履修することが望ましいアドヴァンス英語であり、そのレベルに到達できていない学生も含まれるため、専門性の高い講義内容について行けなかった学生が居るためと考えられる。今後は、同じ講義内容でも、レベルに合わせて解説をすることに努めていきたい。							
来年度の計画	本講義は、来年度からは開講されないが、今後、再開されると仮定するならば、以下の通りである。授業で取り上げた英文は必ず読み直させたり、辞書や参考書等で単語の意味や文法を詳細に調べさせるなどの、能動的な作業を重点的に行わせる。また、英字新聞や論文を読んだり、英語のニュースを聞くなど、日常において積極的に英語に触れさせるなどの作業を徹底させる。							
授業評価アンケートに対するコメント	本講義の授業評価アンケート中での『10点満点での評価』は、平均して8.6点であった。このことから、ある程度十分に、学生への要求に応えられたと自負している。さらに、『授業の準備度』は、4.4点/5点満点中、『話し方の明瞭さ』は、4.4点/5点満点中や『黒板の板書の明瞭さ』は、4.4点/5点満点中、『教員の熱意』は、4.4点/5点満点中、『学生への接し方』は、4.4点/5点満点中、『勉学の雰囲気』の保持度は、4.5点/5点満点中。というように、他のアンケート項目も4点台の評価であった。こうした、高い授業評価を維持できるように、今後も努力を惜しまず、邁進して行く所存である。							
履修登録者数	28名	定期試験 受験者数	19名	合格者数	19名	合格率	100%	